

める。下部のヤブがなければ、小さいが楽しい沢である。

一・二〇、沢は左右に分かれる。水量は右沢の方が多いが地図上から左沢に入る。少々遡って水がかれ、ヤブこぎになる。

一五分程で尾根に出る。宍戸君が木に登り、現在地点を確認し、渋川にむかつてヤブをこぎながらの下降に移る。
(記・和)

(タイム)

大沢七・四五―海上沢出合八・一五―尾根一・二二

―渋川一・二一〇

長根沢右俣

一九八〇年九月七日
和

◆天気(曇のち雨)

峠駅から歩いて沢に入る。八時一五分遡行開始。水は割合と冷たい。左俣分岐に九時三〇分到着。比較的早いペースで来た。右俣と左俣は水量比がほぼ等しい。

入口に大岩が立ちふさがっている右俣にルートをとる。岩質は柔らかい泥岩といった感じである。三〇分程

歩くとかなり大規模な崩壊地があった。ここより一〇分

位歩くと待望の滝である。四段、三段、三段と連続しているが、わけなく直登できた。更に二〇分程歩くと一〇〇段程のナメになった。

一〇時四五分、左岸からの支流が合流する所で昼食。天候のかげんで、長居をしていると体温を奪われて寒くなる。早々に出発。

F4 三段、F5 ナメ状の滝(三段)を越える。一二時〇五分、沢が二分し右に進路をとる。一〇分程で水が涸れた。
(記・和)

(タイム)

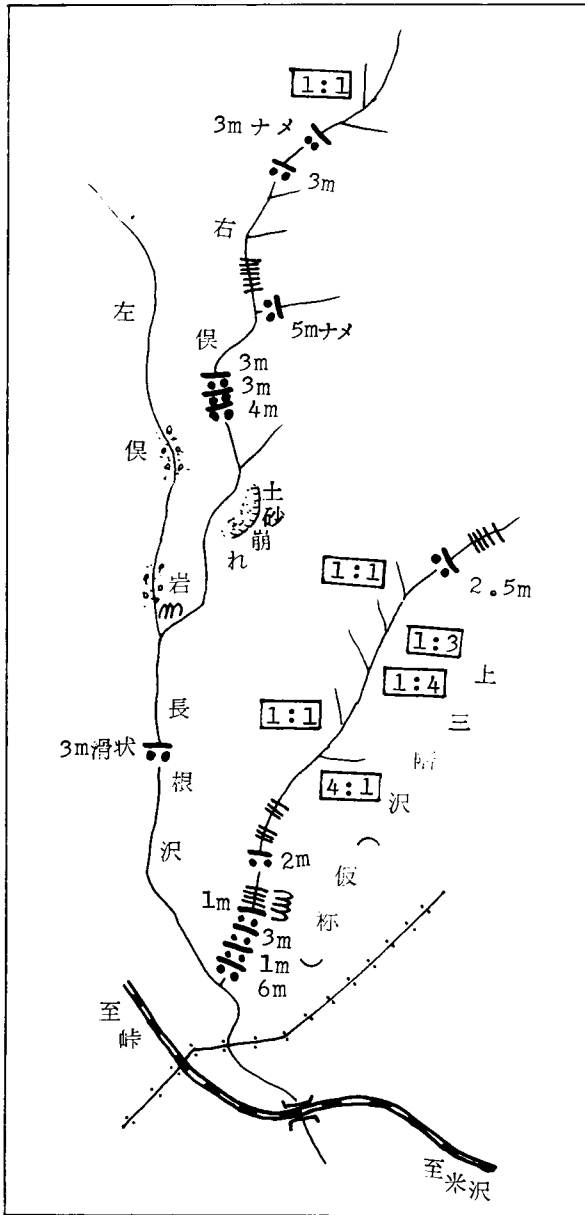
峠七・二〇―出合八・一五―二俣九・三〇―終了一
二・一五

長根沢左俣

和
一九七八年七月二十三日

◆天気(晴)

峠駅から出合まで線路沿いに歩く。砕石の角がうすい地下足袋の底からまともにくいこんで、とても痛い。出



長根沢, 上三階沢 (作図: 窪)

合まで約四〇分。
 ワラジを身に付け九時一〇分遡行開始。沢は滑沢で水はきれいであった。一五分位行くと支流にぶつかる。支流には約六層の滝がかかっていたが、本流には滝はない。浅瀬にはイワナが泳いでおり、三匹捕獲してビニール袋

に入れた。
 一〇時四〇分二俣を通過。これより約一時間遡行して昼食とする。ここまでは傾斜もゆるやかで滝らしいものは見当らなかつた。またここからは水量も極端に少なくなつた。